

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度相模原市子ども・子育て会議 第3回子ども・子育て支援事業計画策定部会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)		
開催日時		令和元年7月24日(水) 午後6時から8時		
開催場所		相模原市役所 本庁舎2階 第1特別会議室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10名)		
公開の可否		可	不可	一部不可
傍聴者数		0人		
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について (2) その他 3 閉 会		

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 第 2 次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について

前回会議からの変更点について、まず計画の冒頭にある「計画策定の背景と趣旨」において、前回会議以降に委員から意見があったとのことで、「施策の充実に図り」の前に「更なる」という文言が加わっている。また「計画の位置付け」において、幼児教育・保育ガイドラインが本計画と関連する指針であることが示された。

幼児教育・保育ガイドラインが関連指針として位置付けられたことについてはよいと思う。

成果指標については、定性的なものや定量的なものが含まれているが、アンケート調査で回答者のその時の気持ちを聞いて、その割合で計るような定性的な指標よりも、利用者数などの定量的な指標の方が客観的に見てわかりやすく指標としてふさわしいと思う。

定量的に計ることができ、成果指標としても適切なものであれば、その方が好ましいと思う。

従来、成果指標は行政が何をどれくらい実施したかを計るアウトプット指標が主流であったが、現在は行政の取組によってどういう効果・成果があったかを計るアウトカム指標の方が好ましいとされている。例えば、基本目標 1 については子どもの権利を大切にす取組の推進に関する施策を掲載しているが、子どもの権利についての市民の意識がどれだけ高まったかを計る客観的な数値は無いと考えられるため、現行計画においてはアンケート調査の結果を成果指標としているところである。その他の定性的な成果指標についても同様の考え方であるが、他に定量的でかつ測定可能な数値などあれば意見をいただきたい。

次期教育振興計画においても、自己肯定感を計る成果指標については「自分にはよいところがあると思いますか」という質問によって計る予定である。全国学力・学習状況調査においても同じ質問をしているが、本市の子どもは自己肯定感が低い結果が出ており、今後、学校教育としてはキャリア教育等によって上げていきたいと考えている。

「自分にはよいところがあると思いますか」という全国学力・学習状況調査に使用している質問によって自己肯定感を計るのであれば、全国比較もできるのよいと思う。

成果指標の「成果」というのを、「評価」という言葉に変えることも考えられるのではないかと。(片山部会長)

取組によって今よりも良い状態にすることが活動の基本的な考え方なので、現行計画では「成果」という言葉を使っている。

基本目標3については、子どもの遊び場・居場所の確保や子どもの参画・多様な活動機会の充実等についての施策が掲載されている項目だが、現行計画の成果指標である体験学習の効果を見る指標では、居場所の確保については計れないと思う。利用者が増加し、十分なスペースが無いこどもセンターもあり、そこに課題意識を持っているため、そういったことも計ることができる成果指標があれば良いと思う。

基本目標ごとに成果指標を設定している都合上、そこに掲載している全ての施策を網羅して計る成果指標を設定することは難しいと考えている。

基本目標3に関する事業である児童クラブについては地域子ども・子育て支援事業の1つなので、この項目とは別に、量の見込みに対する確保提供量の評価を行うこととしている。したがって、この項目では質に関する成果指標を設定しているが、もし他によりよい成果指標があればご意見いただきたい。

体験学習は子どものモチベーションが高い活動の場であるために良い結果が出やすいものと考えられるため、普段の遊び場等において質を上げていけるような成果指標があればよいと思う。

児童クラブ等における満足度などはどうか。

全ての児童クラブで実施することは困難なので、例えばいくつかの児童クラブをピックアップして調査するなど、内容と方法については検討していきたい。

体験学習の効果を見る指標は、活動の中で新たな発見や学びがあったかどうかで計っており、ただ楽しいかどうかだけではなく、新たな気づきがあったかどうかを重視している。

本来は子ども全員に新たな気づきがあることが望ましいが、現実には2割程度の子どものみには新たな気づきがない状況である。そういう子どもが体験学習の中で新たな気づきを得られるようになるためには、日頃の様々な遊びや体験が必要であるため、この指標は適切であると理解した。

体験学習を担当する職員としては、やはり楽しさを求めるだけでなく新たな気づきを与えることが大切なことだと考えている。

基本目標3にはこども・若者支援課が所管している事業が多く含まれているので、やはり教育委員会の事業である体験学習ではなく、こども・若者支援課の事業である児童クラブ等の方がよいのではないかと。

この会議の委員は子どもの遊び場や居場所といった日頃の子どもの生活圏を大事にしている委員が多く、今回の議論で改めて基本目標3の重要性も認識できたと思う。そういったことも踏まえつつ、事務局においては引き続き検討されたい。

計画とは直接関係ないが、保育所に通う子どもの保護者と接している中で、支援が必要な子どもの保護者はいつも申し訳なさそうにしている。どんな状況の人にとっても安心して子育てをしやすい環境を作っていくことが必要だと思う。

また、現在人口減少が進んでいて、本市の出生率は全国や神奈川県内と比較すると低いというデータがある。本市で子どもを育てたいと思う人を増やすためにも、1つ1つ事業の課題を踏まえ、見直しをしつつ推進していく必要があると思う。

現在不登校やひきこもり状態になっている子ども・若者が学校や社会で安心して生活ができるような環境を作っていくことが大切であり、そのためには親にも寄り添う支援者が必要である。そうした環境や支援が整っていけば、それが少子化対策にもつながっていくと思う。

ダウン症の子どもが保育所に入所する際に、支援保育の対象にならなかった事例があった。その子どもは支援保育が必要であると考えられる子どもだったので、支援保育の判断をするための評価方法を見直す必要があるのではないかと思う。

ご意見の内容については、計画に掲載されている事業の1つとして見直し等は随時行われるべきものであると認識しており、併せてそういった子どもがスムーズに小学校へ上がれるよう体制を構築するなど、切れ目のない支援を充実させていきたい。

基本目標5においては妊婦や乳幼児に関する切れ目のない支援ということで、保健対策や相談体制の充実に関する事業が掲載されており、「子どもを育てていることに満足している市民の割合」という成果指標は、適切であると思う。

他方、基本目標4については妊娠前後の支援、出産後のケアや育児不安の軽減、乳幼児の健康対策など幅広く事業が掲載されており、「乳幼児の健康状態の把握率」という成果指標では少し物足りないと感じる。妊娠前に対する支援をしっかり評価し、本市で子どもを生まれて育てたいと思う人が増えると良いと思う。

この部会は計画を策定することを目的としているが、各委員から様々な意見が出ているので、次期計画へ反映するだけでなく各施策につなげていただきたいと思う。

少子化対策については国としても課題意識を持っており、幼児教育・保育や高等教育の無償化など施策を打ち出しているところである。少子化の要因は多岐に渡ると思われるが、子ども・子育ての分野としては、こうした経済的支援だけでなく、様々な観点から子育てしやすい環境を構築していきたい。

少子化対策について、出生率を上げていくことは全国的に見ても難しい状況で

あり、少子化が進む中でどうしていくかということを考えていく必要があるが、市の総合計画においても子育ての分野は重要な位置付けとなっているので、妊産婦への支援や産後のケアなど充実を図っていきたい。

補足だが、本計画の個別計画として位置付けられている相模原市母子保健計画というものがある。そこには妊産婦への支援等に関するより詳細な内容が掲載されており、成果指標も設けている。また、産後のケアなど今後新たな事業を展開していく際には、助産師等の協力のもと進めていきたい。

幼児教育・保育については、質を向上させていくべきという意見があるのは承知しているが、親の立場から見れば、まずどれだけ預かってもらえるかが切実な問題である。病児・病後児や休日等、特に差し迫った状況においては質よりも保育時間の長さが重要視されると思う。もちろんその上で質の向上は求めていきたいが、現実には質を求める以前の問題があると思う。

市民は必要に応じて保育が受けられる環境を望んでいると思う。それに応えるためには、行政がどれだけ余裕を持てるかであり、それはある意味では効率的ではないが、必要なことであると認識してほしい。

児童クラブについては、公立児童クラブの利用料が民間児童クラブよりも安価であるため、民間から公立へ児童が移っていくことがある。民間と公立では事業内容も異なるので一概には言えないが、ある程度利用料のバランスをとらないと共存できないので、公立児童クラブの利用料については定期的に見直した方がよいと思う。

市としては新たな公共施設を作るよりも、既に存在する民間の活力を活用していく方がコスト面でも効率的であり、質の担保も見込める可能性があるので、よりよい仕組みや事業の在り方について引き続き検討されたい。

これまでの会議でも発言してきたが、子育て支援者同士の繋がりや連携が大事であり、連携することで支援が充実することもあると思うので、本計画にも示されているとおり充実させていければ良いと思う。

事務局においては、本日出された様々な意見を踏まえ、次期計画や個別の施策に反映させていくよう検討を進めていただきたい。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出席
1	片山知子	元和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
2	川上孝生	相模原市小中学校長会	欠席
3	笹野和子	公募市民	出席
4	中島清美	公募市民	出席
5	中台厚	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
6	永保貴章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども協会	出席
7	西谷八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
8	藤井春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
9	松原充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
10	村瀬麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
11	山崎和正	相模原商工会議所	欠席

部会長